



つながる

No.30 冬号 (2015.2)

なかつがわ図書館



『旅猫リポート』 中津商業高校 伊藤 那帆 さん

今年で4回目を迎えた「はがきコンクール」。たくさんのご応募をいただき、
ありがとうございました。高校生の作品をご紹介します。



『答えが運ばれてくるまでに』
阿木高校 吉村 京花 さん



『バムとケロのにちょうび』
坂下高校 安藤 優華 さん



佐藤 ひかりさん(神坂)

特集

高校図書室をのぞいてみました！



ふしぎ その ⑬ 「茄子川はどうして茄子川という名前なの？」

高校図書室をのぞいてみました！

今回は、中津川市内の高校図書室が主役です。すべての学校に心良く取材協力していただき、ありがとうございました。どの学校も特徴があり、生徒たちのがんばりで魅力的な図書室になっていることがビシビシ伝わってきました。

中津商業高校

生徒数：514名 蔵書数：22,369冊

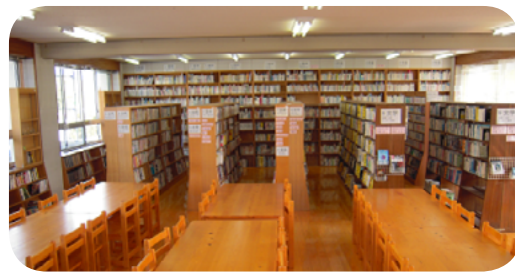
特徴

会計やマーケティングなど商業分野の図書を積極的に収集しています。部活動に力を入れているため（3年間全員部加入）、スポーツ分野の図書が充実しています。



人気本

1位	『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』（坪田信貴）
2位	『K Lost Small World』（壁井ユカコ）
3位	『白ゆき姫殺人事件』（湊かなえ）



▲館内の様子

先生 オススメの本

『赤めだか』立川談春（扶桑社）
落語家の立川談春がその修業（前座）時代を書いた本です。ほとんどの人が（特に高校生は）縁のない落語という世界が、楽しいくらい鮮やかに目の前に広がります。本を読むことは面白いと感じさせてくれる1冊です。



▲図書部のポップ

▲図書室前のかざりつけ

坂下高校

生徒数：236名 蔵書数：19,121冊

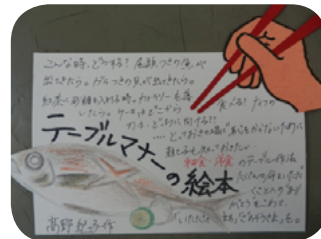
特徴

生活文化科があり、料理好きな生徒もいるのでお菓子作りの本が多い。今、話題の本を即購入して、生徒が読みたいと思える本を入れている。



人気本

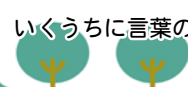
1位	『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』（坪田信貴）
2位	『魔法科高校の劣等生シリーズ』（佐島勤）
3位	『いつか眠りにつく日』（いぬじゅん）



▲POPコンクール優秀作品

先生 オススメの本

『本日はお日柄もよく』原田マハ（徳間書店）
心に残る言葉って…と思ったときに、日常生活の中で記憶に残る言葉は少ないはず。この本はスピーチライターの久遠久美のスピーチを聞いて感銘を受けるところから物語が始まります。日頃、TwitterやLineなどのSNSで繋がっている気がするけど実は関係が薄いのが現状です。読んでいくうちに言葉の威力に気づかされます。



▲図書委員の活動風景

中津工業高校

生徒数：444名 蔵書数：17,933冊



特徴

工業高校ということもあって、技術・工学の本が多い。新しいコミック、ライトノベルのシリーズも入り、タイトルが増えました。静かで落ち着ける場所です。

人気本

1位	『ハイキュー!!』（古舘 春一）
2位	『DAYS』（安田 剛士）
3位	『緋弾のアリア』（赤松 中学）



▲館内の様子

▲学校祭の様子

中津高校

生徒数：601名 蔵書数：30,507冊



特徴

読書の楽しさを知ることができるよう、小説などの読み物が充実しています。床から本棚まで木を使用し、居心地のよい空間となっているところがおすすめポイントです。

人気本

1位	『あん』（ドリアン助川）
2位	『虚ろな十字架』（東野圭吾）
3位	『村上海賊の娘（上）』（和田竜）



▲図書委員による本の展示



▲読書週間企画の製作

先生 オススメの本

『手紙』東野圭吾（文藝春秋）
犯罪を犯した兄とそのために差別を受ける弟をつなぐ手紙。赦すということの意味を考えさせられ、そして感動する一冊です。



▲館内の様子

阿木高校

生徒数：172名 蔵書数：8,008冊



特徴

専門書が充実しています。また、心が和む絵本が多くあります。動物の飼育の本、料理の本、戦国武将の本が人気があります。

先生 オススメの本

『きいろいゾウ』西加奈子（小学館）
たくさんの登場人物がそれぞれに魅力的で、読み終えた後、ほのぼのとしたり、しんみりしたり、何度も読み返したくなる本です。



▲館内の様子



「アイらぶ図書館」は図書館や読書活動に関するたくさんの「愛」をペンリレーで掲載しています。



↓
もりふみ
高橋杜文さん



中学生
佐藤 ひかりさん
【神坂】

↓
次はあなた…？

知らない世界を知るために

私は正直に言うとおまり読書は「一重である。」という言葉に共感好きではない。文字がたくさんあり、また一つの物語が終わるまで数百ページもある。途中で読むことがめんどくさくなってしまふ。しかし、こんな私でもある一冊の本を読み、本のすばらしさを実感することができた。

その本は、志賀直哉の書いた短編「城の崎にて」である。この本は、主人公が事故にあいその療養中に、蜂と鼠、いもりの死の方を見て、生と死が紙一重であると感じるものである。

これは短編だったため、読みやすくまた分かりやすい文章であった。そのため、私は「生と死は紙

一重である。」という言葉に共感することができた。確かに、誰もが平均年齢まで生きていけるとはかぎらない。私はまだ十五歳だが明日は本当に生きているのだろうか。このことは誰にもわからない、生と死の不思議なのだと感じた。私は、本によって生きること、死ぬことについて読む前より学ぶことができたと思う。本は知らないこと、知らない世界を教える、とてもすごいもので、人にとって大切なものだと思う。だから私は多くの本を読んでいきたいと思った。みなさんも、知らない世界を旅してみたいかがだろう。

ふしぎ その⑫ 「なすびがわ 茄子川はどうして茄子川という名前なの？」

調査隊
募集中！

次のふしぎは…

「中津川に占いをやってくれる猫がいる！どこにいますか？」

※ 250文字程度で調査結果をどしどしご投稿ください！

※ おたよりの最後に使った資料の名前を書いてください。

おたより、ありがとうございます。
『中津川のむかし話』には、次のような話があります。
茄子川というところは、昔から、茄子をたくさん作っているところ

この本には、他にも中津川市内の地名に関する興味深い昔話が収録されています。
参考文献…『中津川のむかし話』(恵那児童文学の会編／中津川青年会議所)

栃木県的那須地方は、那須岳の裾野である緩斜面が広く展開しています。また、岐阜県中津川市茄子川は、那須より規模は遥かに小さいですが、屏風山断層の西側に広がる緩斜面ですね。「なす」の語源は、「なすりつける」とか、「ならす」の意味の他に「なすむ」というどろどろの湿地という意味もあります。栃木県的那須は平坦な地形の「なら」に通じる地名ゆえです。岐阜県の茄子川は、川がついているので、平らなところを浸食した意味も含まれると考えられますね。

で、どこを見ても茄子の畑ばかりでした。あるとき、偉い殿様が亡くなられたものだから、「大きい声を出したり、鳴りものを鳴らしてはいけない」というお布令が出ました。ところが、村の人たちは、「なりものをならしてはいけない」ということを、「木になるものをならしてはいけない」と聞き違ひして村中になっている茄子をみんなちぎって川へ捨ててしまいました。川は茄子で埋まりました。お役人が来て、「こりや、茄子の川じゃ」と言って、たまげました。それから、この村を茄子川と呼ぶようになったということです。



今回は、時の旅人さんからおたよりをいただきました